令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【三橋中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	＜学習上の課題＞各種調査で生徒の学習時間に関する質問項目は、低い傾向がある。基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、繰り返し取り組むことが課題となっている。また、思考力・判断力・表現力を伸ばす前提となる、基礎的な事項の定着に課題があると考えられる。 ＜指導上の課題＞学力の定着状況に差があることから、個に応じた指導の必要性が高い。そして、生徒が自己表現する活動を設定すると共に、その過程の評価・指導改善を図る必要がある。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	小テストの実施・業前活動での朝学習・家庭学習の課題設定など、基礎的・基本的な内容について繰り返し取り組む。【通年】 授業改善に向けては、一昨年度より学校研究として行っている「個別最適な学び」を、さらに推進していく。各教科で公開授業を行い、教職員が参観し合う研修を行う。【1・2学期】 各教科で、見方・考え方を働かせ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かにした上で、主体的・対話的で深い学びができるよう授業改善を図っていく。学校研究を進め、成果を教職員で共有しながら、指導改善に努める。【通年】 家庭と連携をとりながら学習習慣を確立し、基礎的・基本的な内容を定着を図る。【通年】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語の「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」の領域では全国や県の平均正答率を上回り、「単語の種別について理解しているかどうかをみる」問題においては平均正答率を大きく上回った。その反面、「書くこと」の領域では全国や県の平均正答率を大きく下回り、特に「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる」問題の正答率は大きく下回った。 数学においては「関数」以外の領域において全国、県の平均正答率を下回り、特に「具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる」問題の正答率は大きく下回った。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	選択式の問題における正答率は高い傾向である反面、短答式、記述式の正答率は低い傾向があることから、書いたり説明したりといった表現することにおいて課題があると考えられる。ただし、無回答率が全国や県の平均に比べて全体的に低いことから、問題に取り組む姿勢や意欲はあるものと考えられる。 このことから、情報を適切に活用する力や論理的に物事をとらえる力に課題のある生徒が多いと考えられる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	朝学習やICTを活用した学習を通して、基礎的・基本的な内容については繰り返し取り組むことができている。また、1学期中に各教科において全教員が公開授業を行い、教員間で相互参観を行うことができた。 「個別最適な学び」については、ICT機器を効果的に活用しながら研究を進めることができている。今後は家庭と連携をとりながら生徒が学習習慣を確立し、自主的に取り組むことができるよう指導改善に努めていく。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）